

ふるさとふちゅう

再発見

【第58回】府中が農村だったころ（18）～府中町内の山

府中町の山林は町域の何%を占めるか知っていますか。平成28（2016）年改訂の「府中町都市計画マスタープラン」では町域の全面積は10・41km²で、そのうち4・5km²が山林です。43・2%が山です。広島市近郊の町としては広いと思います。か。皆さんは府中町にある山の名前をいくつ知っていますか。『芸藩通志』の村絵図にはアケクラ（揚倉）山・大谷山・鹿籠山・観音山・堂所山・鍋倉山・千代山が記されています。文化12（1815）年に同書編纂のために出された「下調べ帳」では、62の山の名称が記されています。その多くは腰林と呼ばれた私有の山です。

私たちが山の名称を知らないのは2つ理由があります。まず、宅地化が進み、姿が山でなくなったことです。私の知人は府中町字坊主山に住んでいましたが現在の住居表示は柳ヶ丘です。柳ヶ丘団地は鹿籠山・日焼山・坊主山を造成してできました。団地内に坂道が多いことは知っていますが、現在の住宅が立ち並ぶ姿から山をイメージする人は少ないでしょう。

府中町文化財保護審議会委員
菅 信博



造成中の柳ヶ丘団地 南部新池（現鷗崎公園）から府中隧道方向を望む

身近でないことです。農村であった頃の府中村では、山は建築材を伐採する場所、田畑の肥料にする下草などを得る場所、薪など燃料の木を伐る場所であり、生活に無くてはならない場所でした。このため日常的に手を入れ、山を守りました。生活様式の変化とともに山との関わりが減り、山の名も意識されなくなりました。空城山や揚倉山には大きな公園が作られ、町民にもよく利用されるため、地名としても場所もよく知られています。また日焼山児童公園・野地山児童公園・観音山児童公園などはかつては山の一部で山の名称が公園名として残っています。

親子カフェKoti(コティ)

魅力発信!

まち記者レポート

土生 けい さん

9月中旬、府中町本町にある「菓子屋ケレスコ」さんの2階をお借りして「親子カフェ Koti」を初めて開催しました！“Koti”はフィンランド語で「家」を意味する言葉です。「小さな子どもを連れてふらっと立ち寄れるカフェをつくりたい！」—そんなママたちの想いから始まった居場所づくり。子育てを頑張るママたちが、家のようにほっと安心できて、親子で気ままに過ごせる空間を目指しています。

お店の美味しいお菓子を囲んでおしゃべりタイム。「夜に全然寝てくれなくて……」「習い事は何歳からしてる？」など悩みを共有したり、「子育てあるある」で盛り上がり、笑顔あふれる時間になりました。先輩ママの体験談には、みんな興味津々♪

参加者のお子さんたちは0歳から2歳。おしゃべりタイムの間、スタッフと過ごしました。最初は緊張して泣いていた子も、遊ぶうちに安心してにっこり。お昼寝をする子もいて、それぞれが心地よい過ごし方をしていました。

◆今後の活動などはKotiのInstagramをご覧ください。



府中町公式Instagramアカウント

まちの魅力を発信しています。

「わが家のアイドル」では、お子さん・お孫さんのお写真・動画も募集中！



◀Instagram
はこちら

応募は
こちら▶

